

February 2017

vol. 258

■今月のトピックス

桃園市が推進する産業発展計画及び企業誘致活動

■日本企業から見た台湾

～ 忠平企画有限公司董事長兼総経理

松崎英明氏インタビュー～

日系外食企業の台湾進出を支援する忠平企画

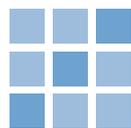
■台湾進出ガイド

台湾工業区及び輸出加工区情報

■台湾マクロ経済指標

■インフォメーション

【今月のトピックス】



## 桃園市が推進する産業発展計画及び企業誘致活動

台湾桃園国際空港が位置する桃園市は、空港から台北駅まで僅か35分で移動可能な台湾を代表する工業都市の一つであり、近年桃園航空城の開発や「アジアシリコンバレー計画」の推進に伴い、台湾における研究開発拠点として活性化している。また、各産業リソースを整合し、産業を繋ぐネットワークの整備にも注力している。今回は桃園市が推進する産業発展の概況と政策注目し、桃園市の今後企業誘致及びこれに伴う日本企業の投資チャンスについて整理する。

### 桃園市の産業概況及び今後の発展政策

桃園市には30の工業区が分布し、産業規模は3.11兆TWDと台湾内6ヶ所の直轄市において第2位の規模である。特に電子情報産業や国際物流、電気自動車、クラウドコンピューティング、製造業等の企業が集積しており、各生産額も台湾でトップレベルにある。また当市は多くの日系企業が投資しており、現在およ

そ200社が拠点を設置している。業種別に見ると一般機械(例：永日建設機械股份有限公司)や電子部品(例：華成電子股份有限公司)、その他伝統的な製造業(例：台富製薬股份有限公司、住友電工等)が多く入居している。

なお、当市では行政院が掲げる「アジアシリコンバレー計画」に基づき、スマートシティ・産業の高度化・技術革新研究開発クラスターの3項目について関連する推進計画を実施していく予定である(表1)。

表1：桃園市アジアシリコンバレー計画推進における重点領域

重点領域	推進プラン
スマートシティの発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高品質なネット環境の整備</li> <li>・スマート配線ネットワーク・充電設備の整備</li> <li>・スムーズなスマート物流の運行</li> <li>・スマート交通システムの整備</li> <li>・スマート医療サービスの発展</li> </ul>
産業高度化のロールモデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な工業区のスマート化</li> <li>・台湾全土・一部エリア・エリアを跨いだIoT技術の実証実験</li> </ul>
技術革新研究開発クラスター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・革新研究開発センターの設置</li> <li>・シリコンバレー各支部のリソースの整合、国外技術の導入</li> <li>・世界の主なIoT協会との連携</li> <li>・産業研究開発力強化、シリコンバレー等の産業クラスターとの連携強化</li> </ul>

出所：NRI整理

### 桃園市の企業誘致計画のポイント

前述した政策の実施に向け、桃園市は当計画推進エリアを既に選定しており、今後は海外企業の誘致を進めていく予定である。産業別に、環境保護・グリーンエネルギーやスマート物流、エキシビジョンセンター、革新的な起業、スマート製造、IoT等があり、詳細は以下の通りである。

1. 桃園バイオマスセンターBOT案

「グリーン桃園新生活(綠色桃園新生活)」のビジョン実現に向けて、CO2削減や廃棄物の多元処理・リサイクル等の具

体的な目標を達成させる。また、桃園観音環保科技園区内4.38haの敷地にBOT方式による「桃園市バイオマスセンター」を設置し、発酵・熱処理・固形化処理を実施する。現在既に環境アセスメントは終了しており、環保署の審査プロセスを経て、早ければ今年後半には入札に向けた作業が開始される予定である。順調に進めば台湾初となる「バイオマスセンター」のロールモデル案件となる。

## 2. 幼獅国際青年創業村

若者の起業の夢実現をサポートするべく、地元企業のイノベーションを推進し、市全体の科学技術力を向上させる。また、スマートシティの実現に向けて、伝統的な工場の活性化を図り、若者や企業、研究開発従事者等の学習・交流や、実際に作業等ができる場を提供する。具体的な開発項目には、研究開発ビルやレジャー施設、研修・会議・展示スペース等の各種施設など、起業支援に関連するハード・ソフト面での各種計画が含まれ、インダストリー4.0の桃園市への定着を念頭に実施される。なお当計画には11.45haの敷地が用意される予定で、現在既に用地区分等の作業に入っている。

## 3. 桃園エキシビジョンセンター

近年、台湾では新幹線駅周辺の開発に関心が高まっているが、中でも特に桃園駅周辺の開発が急速に進んでおり、注目を集めている。こうした中、桃園エキシビジョンセンターは「新幹線桃園駅特定区」付近に設置が予定されている国家レベルの建設計画である。桃園航空城建設計画エリア内の施設として、航空城の発展を加速させ、MICE産業を主力産業の一つとしていく予定である。会議施設をメインに、附属する展示施設等により、世界最高レベルのエキシビジョンセンターの設置を目標としており、加えて周辺の商業施設 5つ星ホテル、アミューズメント施設等と共に多くの顧客を呼び込み、世界レベルの会議・展示施設を通して国際交流及び新興産業の発展を推進していく予定である。

## 4. アジア革新研究開発人材交流センター

台湾製造業の優位性を活かし、シリコンバレー企業との連携を強化しながら、若者の起業を支援する。「アジアシリコンバレー計画」推進に向け、「高速鉄道桃園駅特定区計画」に

表2:今後の誘致計画

計画	エリア	面積	スケジュール
桃園生質能センター	観音区 (観音環保科技園区)	4.38ha	2017年後半以降に企業誘致開始
幼獅国際青年創業村	楊梅区 (幼師工業区横)	11.45ha	現在計画中
桃園エキシビジョンセンター	青埔区 (高速鉄道桃園駅特定区)	4.63ha	2017年以降に施工開始
アジア革新研究開発人材センター		3.81ha	現在用地の用途変更作業実施中

出所:桃園市政府資料よりNRI整理

おける学校用地3.81haを「アジア革新研究開発人材交流センター」の用地とする。当計画の速やかな推進を目指し、既に当用地の用途変更が先行して進められている。

これまで日本は製造業から小売・サービス業、更には大規模な物流業に至るまで幅広い産業が発展し、堅固な産業基盤が形成されてきた。桃園市はこうした日本企業との連携を更に強化し、政策面でも幅広い領域における連携を推進していく予定であり、将来的に日本との投資面での連携が更に深化していくと考えられる。日本産業の発展は台湾にとって常にロールモデルであり、日本企業の優れた技術の導入を通じて台湾の製造業の優位性が更に強化され、また産業クラスターがより堅固となることで、桃園市の産業高度化が促進し、ひいてはアジア太平洋地域におけるスマートシティの手本となることが期待されている。

(江啟漢:c-chiang@nri.co.jp)